

環境部会

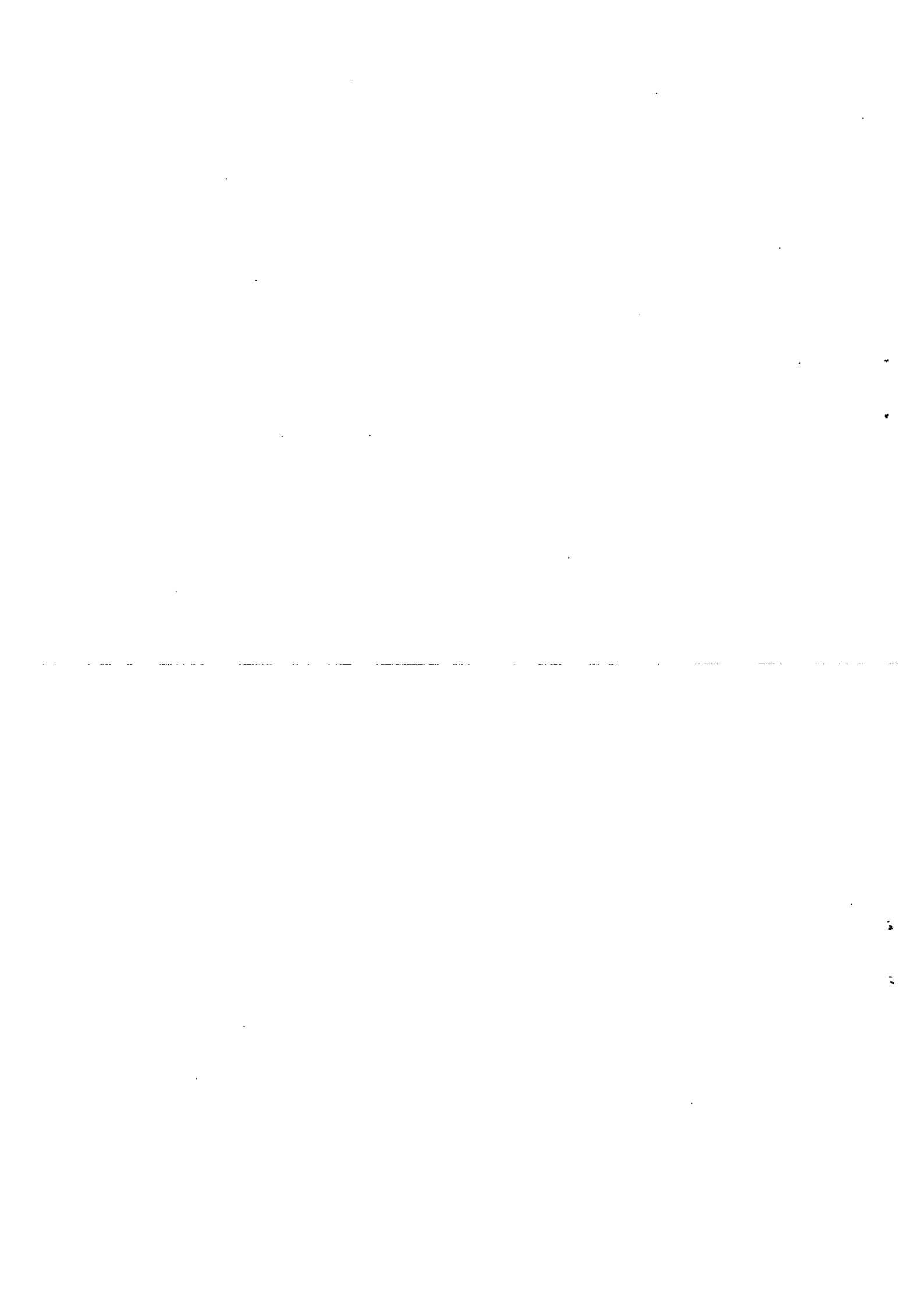
テーマ

捨てればごみ～分ければ資源　　すてる過去から生かす未来へ

☆グループメンバー

長澤みさ子（部長）　　畠中美貴枝（副部長）

中井クニ子　　松本豊子　　山中圭子　　宮路かほる



★環境部会

◎ごみ問題について

捨てればごみ～分ければ資源　　すてる過去から生かす未来へ

★はじめに

21世紀は環境の時代ともいわれ、年々増え続けるごみ対策は全国民の大きな課題となっています。

環境部会では、この地球環境の悪化を、地域をあげてのネットワークで少しでもくい止めることができたという願いのもとに、まず身近なごみ問題をとおして、環境についてのまちづくりリーダーになろうと考えました。

〇提言

1. ごみアドバイザーの設置

(1) ごみアドバイザーの必要性

篠山市清掃センターへのごみ搬入量は年々増加傾向にあり、今こそごみ減量化対策について考えなくてはなりません。

ごみの「分別収集」が「減量化」さらに「資源化」へとつながることはすでに市民の多くの方が周知されているところです。

しかしこの度、より一層マナーの向上を図るため私たち環境部会は原点に戻り、ごみの現状を知ることから始めようと、収集作業員のご協力を得て各地域のごみステーションを巡回し、“ごみ出しマナー”の悪さに唖然として、何とかしなければ…の思いが強くなりいろいろと討議を重ねてきました。

ごみ収集作業員の方、保健衛生協議会の役員の方々、行政担当者を交え、ごみ問題に関する幾多の課題について意見交換をし、“分別の仕方が徹底していない”という現状を知りました。

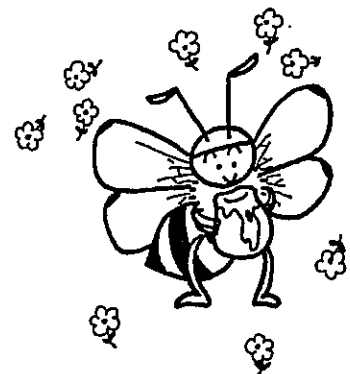
住みよく美しい篠山市にするために、ごみアドバイザー設置の必要性を感じました。分別収集の先進地である西脇市の清掃事務組合「みどり園」、氷上町のリサイクルセンターの施設を見学する中で、ごみ処理に対する洗練された施設に感嘆すると共に、市民のごみに対しての磨かれた感覚に目覚め、徹底したごみ出しの定着に日夜努力されている“ごみ減量推進員”のご尽力に頭がさがりました。

篠山市も平成14年には新施設の清掃センターが稼働し、分別収集の徹底が問われるときにあたり、今以上に住民は一日も早く正しい分別を学び、慣れることが大切であります。学び、慣れるにはアドバイザーが必要だと考えました。研修を積んだアドバイザーが中心となり、地域の中で老若男女を問わず住民一人ひとりにごみ出しマナーの徹底を図るため、是非『ごみアドバイザーの設置』を要望いたします。

(2) ごみアドバイザーの仕事

ごみアドバイザーの仕事として、次にあげる事項が考えられます。

- ①ごみの分別とステーションへの正しい出し方について、住民にわかりやすくアドバイスする
- ②ごみ減量化とリサイクルを積極的に推進するよう呼びかける
- ③ごみステーションを巡回して現状把握に努める
- ④質問、苦情等の相談役になる
- ⑤要望に応じ、住民説明会を開く
- ⑥啓発活動に努める
- ⑦モデル地区を推挙する
- ⑧外国の人に説明する手だてをする



2. ごみアドバイザーを養成する講座の開設

一例として提案します。

- (1) 対象者 市民（年齢不問・老若男女を問わず熱意のある方）
- (2) 選出方法 公募による
- (3) 位置付け 修了者には修了証書を発行、市に登録する

3. 幼児期から意識づけをする

今、地球の温暖化、オゾン層の破壊、海洋汚染、熱帯雨林の減少等、環境破壊が問われており、地球規模での環境保全対策が求められています。

次世代を担う子どもたちに、家庭や地域社会と連携して省資源、省エネルギーやリサイクルなどの取り組みを幼児期から認識させるとともに、教育の場においてもよりよい環境づくりを実践させて、人間の環境に対する責任と役割を理解させる必要があります。

一例として提案します。

- (1) 教育機関への呼びかけ
- (2) パンフレット作成・配布
- (3) 各家庭での習慣づけの呼びかけ

★おわりに

ごみ焼却等、新施設の稼働に先駆け、安心して豊かな市民生活を営むためにも、ごみ問題に対して正しい知識を得ることはとても大切なことです。

住民みんなの意識をそろえて一つの大きな波にしていくことは容易なことではありません。しかし、どんな小さなことからでも取り組まなければ前進しません。

環境問題は幅広く奥が深いものですが、すべての市民がごみ問題に対して深い関わりを持たなければいけないと思います。人それぞれ関心度も異なりますが、いくつかのプロジェクトが同時進行したならば、時には同じ思いが交わり合い、組織活動の輪の広がりを見せてくれるものと期待します。

そのためにも環境問題、とりわけ“ごみ分別”についても幼児期から着目させ、身近なところから実践を繰り返すなかで、家庭環境づくり、社会環境づくりをめざしてほしいと願います。

そして、行政と住民が一体となって環境保全に取り組む協力体制が何よりも大切です。

◆環境部会の活動

年	月	日	活 動 内 容
H12			
	6	12	ごみ収集の現状を聞く（市民課）
	6	16	今後の活動計画
	6	23	ごみ収集体験（パッカー車に同行）
	6	27	“（ “ ）
	7	3	“（ “ ）
	7	5	ごみ収集について話を聞く（市民課）
	7	17	ごみ収集体験現地視察の現状について
	7	25	“ “
	8	3	ごみアドバイザー設置に向けての話し合い
	8	25	篠山市保健衛生協議会役員との話し合いについて
	9	6	篠山市保健衛生協議会役員との意見交流会
	9	18	氷上町クリーンセンター見学（丹波の森公苑主催事業に参加）
	9	19	篠山市保健衛生協議会役員との意見交流会のまとめ
	10	5	西脇市「みどり園」の見学
	10	20	寸劇についての話し合い
	11	6	寸劇について清掃センター職員と交流
H13	11	17	寸劇に向けての原稿検討
	1	5	清掃センター職員との交流、寸劇について
	1	13	寸劇に向けての役割分担
	1	30	提言、報告会に向けての検討
	2	7	“ “
	2	14	“ “
	2	19	“ “
2	27	“ “	

◆環境部会委員

◎部長 長澤みさ子
 ○副部長 畠中美貴枝
 松本豊子
 山中圭子
 宮路かほる
 中井クニ子

◆助言者、協力者

・北播磨清掃事務組合職員
 ・氷上町クリーンセンター職員
 ・篠山市保健衛生推進協議会役員